

マレーシア研修を通して

中学生の頃に抱いた夢のうちの一つが海外に行くことでした。

一年前の高一の春、海外派遣プロジェクトでインドネシアに行けると聞き、興味関心を持つと同時に浮かんだのは不安。そもそも面接に受かるのか、文化の違う世界でうまくやれるのか、そんな不安に押されて、その年は手を挙げられませんでした。そこから一年、今度の募集はマレーシアでした。不安は変わらずでしたが、受験前最後の自由に学べるチャンスだと自分に言い聞かせて期日ギリギリに飛び込みました。

メンバーが揃い、始まった研修はしんどい時の方が多かったように感じます。元々余裕のあるとは言えなかった高校生活の中に研修の時間が加わり、家の事情や体調不良で研修に行けない日もありました。それでもめげなかったのは、仲間達がとても真面目で素敵で、尊敬出来る人たちだったからだと感じます。自分も役に立ちたい、一緒に頑張りたい、そんな思いで駆け抜けました。

出国の日が近づくとまた不安を思い出しました。不安を抱える私の背中を押してくれたのは友人です。「楽しんでおいで」「頑張ってるね」「いってらっしゃい」と、たくさんの友人に声をかけてもらいました。マレーシアに滞在している間も、今日はこんなことがあったと報告しあったり、写真を送りあったり、友人の素敵なところを改めて知りました。

不安と一緒に日本を飛び出した私ですが、降り立ってからは、意外と呆気なく不安は払拭されました。どこか心の中で海外を異世界のように感じていたのですが、実際に降りてみると友達の家に行った時のような、そんな少しの違和感しか感じなかったのです。柔軟剤が違うみたいに国特有の匂いがあったり、友達のお母さんの手料理みたいにご飯の味がちょっと食べ慣れなかったり、そんな些細な違和感を体全体で感じているような、そんな感覚でした。異世界みたいに全く言葉が通じないわけでも、未知の生物がいるわけでもない、思ったよりも暖かい世界でした。現地で何よりも驚いたのが意外と英語が通じたことです。勿論、引率の先生方が翻訳や仲介をしてくれたこともありますが、それとは別に、道を歩けば知ってる英単語が沢山あり、それを理解できていることが嬉しかったです。一方で、マレーシアでできた友人とコミュニケーションをとる時には、自分の英語力にもどかしさを感じました。自分の気持ちを思うように伝えられないこと、相手の気持ちをうまく汲み取ってあげられないことが何よりも悔しかったです。英語を学ぶ意味や喜びを知ると同時に頑張る理由を見つけられました。

私の将来の夢は、英語科教員になることです。この夢を抱いた時からずっと考えていました。英語が嫌いな子にどうやって英語の価値を知ってもらえばいいのだろうか。私は先生になった時、子供たちにどんな夢を与えてあげられるのだろうか。答えは常に模索していくものだと思いますが、海外に行くという夢を一つ叶えた今、夢を叶える喜びを共有したいと感じました。そのためにも、大人になったとき夢見ることを忘れない人でいたいです。(H.K.)